

A painterly illustration of a warrior. The warrior is wearing a dark blue, hooded cloak and is holding a long, glowing sword that emits a bright yellow and orange light. The background is a mix of dark, moody colors with some lighter, hazy areas, suggesting a dramatic or intense scene. The overall style is reminiscent of classic fantasy art.

世間に知られては
いけない勇者の
下半身事情

晴れて魔法使いとして勇者パーティーに加入したものの、どうも引つかかることが。

肌艶よく元気溼刺な勇者と、疲れた顔をして憂鬱そうな武闘家の対照的なさま。

二人の關係に問題があるように思え、武闘家の腰痛を魔法で癒しながら、探りをいれてみると。

「勇者にこきでも使われているのか？」

「いや、そんなことはないけど、勇者のために俺にできることは、な

んでもしようと思う。

俺の母は魔王の手下に殺されたから・・・。

勇者には仇をとってほしいし」

「で、なんで腰痛に？」と聞くも、苦笑して応えてくれず。気になって、そのあとも嗅ぎまわったところ。

森で野宿をしたとき。

ふと目が覚めるたなら、勇者と武闘家が不在。

見張りの賢者に聞けば「眠れないから二人で鍛錬をするってさ」と。

どうも胸騒ぎがして、二人が消えた方向へと足をむける。

野宿しているところから大分、離れて聞こえたのは「バチン！」と痛
そうな音。

カンテラの灯を消し、忍び足で音のするほうへ。
藪にもぐりこんで見やれば、なんと四つん這いになった裸の武闘家が、
勇者に鞭打たれていて。

「昼間、魔法使いに色目使いやがって！」

「おぐううう！」と頭をそらして、辛そうに呻く武闘家。
もう何回も鞭を食らっているようで尻は真っ赤。

「止めるべきか」と腰を上げかけ、思いとどまる。
カンテラの明かりは小さく、見えにくいのが、武闘家は緊縛されている

し、地面には精液が散っているよう。

「同意の上？」と困惑するうちにも、鞭が振るわれ「あああぐう！」「おふううう！」とどこか悩ましいような叫びが。

「ち、ちがあ、腰痛を治した、だけえ・・・！」

「腰痛から勘づかれたらどうすんだよ！この淫乱筋肉が！」

怒声と鞭を浴びせたなら、痛みからか快感からか、甲高い声をあげて草地に倒れこむ。

鞭を放って、歩みよった勇者も草地に倒れて仰向けに。

よろよると武闘家は起きあがり、その体に跨って、呼吸を乱しながら腰

を上。

「これくらいじゃ魔王、倒す気になれねえな！」と手のひらで尻を叩けば、顔を歪めながらも精液を噴きだし、あとは垂れ流しに。

「お、お願、ああ、魔王倒してえ、俺、俺え、いっば、奉仕するからあ、ああう、ふひい！」

緊縛された筋肉質な体が反り返り震えるさまは、なんとも艶めかしい。男に興味がなくても腰が疼いたものだが、勇者もまた、ぐっときたよううで「くう、いっばあ、飲めよお！」と腰を強打。

「ふぐうう、あああ・・・！」と痙攣して、勇者に倒れかかるも、さつきまでの威勢はどこへやら。

武闘家に抱きつき「もうやだあ、実家に帰ってお前と暮らしたい！」と泣きじゃくる。

「そしたら俺とエッチできなくなるよ？」

「もつとやだあ！」と喚くのを宥める武闘家はほほ笑みつつ、目が笑っていないく……。

「親の仇を討ちたいなら」と勇者が脅しているのではなく、彼のほうが肉体で虜にして操っているのかもしれない。

